

## 被災地クラブの活動状況と復興へ向けて(福島県:前編)

～福島県浜通り地区の被災地クラブの活動状況～

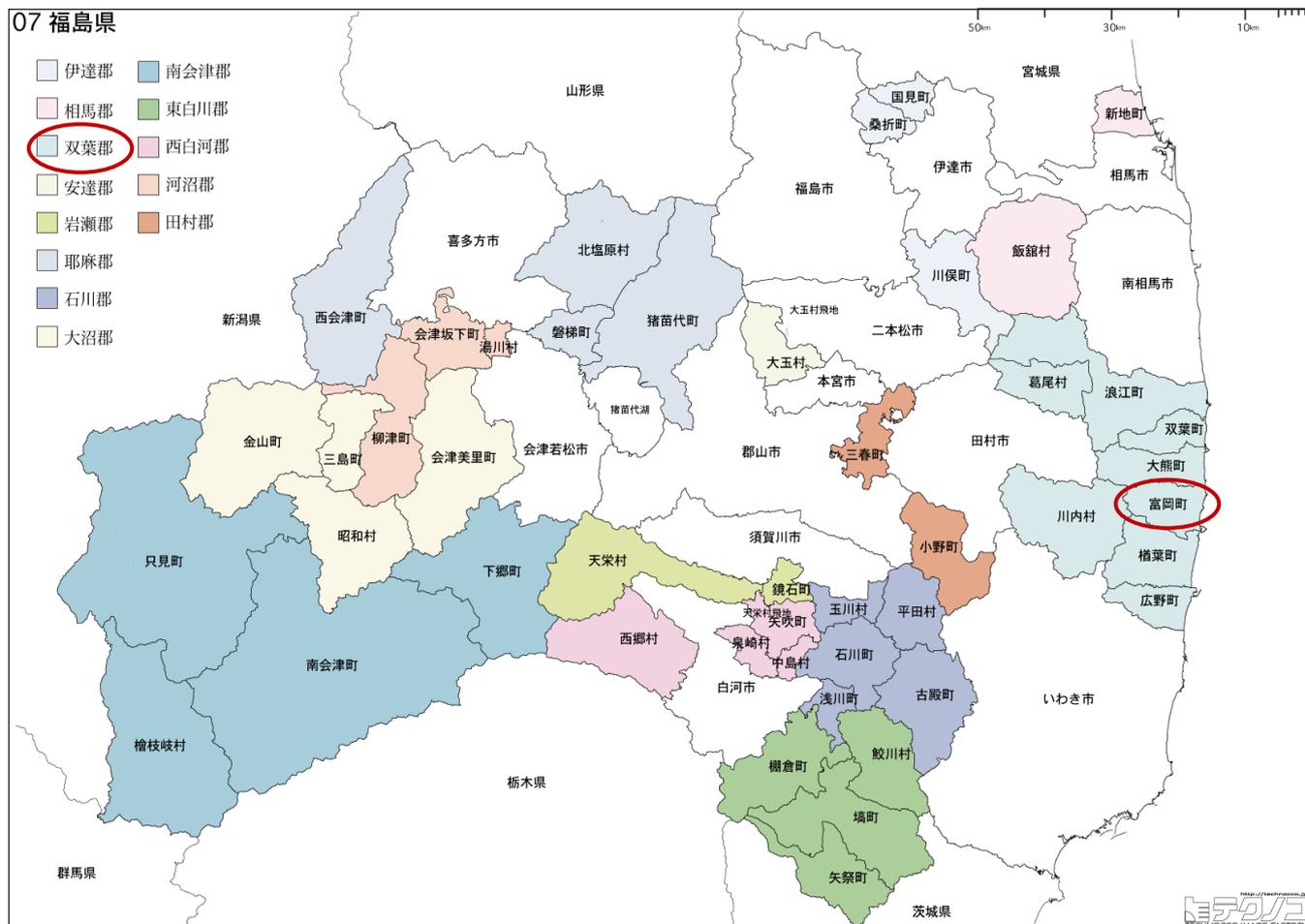
(財)福島県体育協会 浜通り広域スポーツセンター  
チーフマネージャー 愛川政弘

昨年の東日本大震災、そして原発事故発生から1年半。地元のクラブ関係者の活動の一端を報告いたします。

### 東日本大震災、原発事故直後の状況

平成23年3月11日の大地震、津波、原発事故、そして4月11日の直下型の大地震。福島県は県内の2つの山間部によって浜通り・中通り・会津の3つの地方に分かれています。沿岸部である「浜通り地区」は、県内でも特に大きな被害に見舞われ、一瞬にしてすべてのことが激変しました。特に、原発周辺の双葉郡においては、全町村が避難を余儀なくされる等、クラブの活動どころか、生活することもままならない状況に追い込まれました。

浜通り地区の市町村には、全部で22の総合型クラブがあり、浜通り広域スポーツセンターは、浜通り地区のほぼ中央の富岡町にありました。職員自身も避難生活を経験しながら、各クラブとのつながりを持ち続けてきた様子を紹介します。



0070A4EM21「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を使用した。(承認番号 平22業使 第632号)」

## 地元住民の心をつないだクラブ

震災直後は、行政も大混乱の状態にあり、地域のコミュニティを維持するためには、地元の顔であるクラブ関係者の貢献度が大きく作用し、地域住民にとって総合型クラブはなくてはならない存在になっていました。

富岡町の町長自ら「こんな時だからこそ是非、町のためにもクラブを続けていただきたい」と頼む場面も見られました。

行政が震災等の対応に追われる中、バラバラになった町民の再会の場として、クラブがスポーツイベント等を企画・開催しました。



【さくらスポーツフェスタ2011】  
ノルディックウォーキングの一場面。富岡町  
長自ら参加（先頭）し、町民との対話を通  
して、町の復興に役立てようとしていた。



自らも被災して大変な時に、地元住民のために尽力する関係者の姿には、本当にクラブが必要とされているという現状を再認識させられました。

ある人の「俺の家は全て流されたけど、ハート（気持ち）は流されていないから」という地元への熱い思いを語った言葉は今でも忘れられません。

【さくらスポーツフェスタ2011】

ボクササイズの一場面。平成 23 年 10 月、県内外に避難している  
富岡町民の再会の場として、元気づくりの場として事業開催。

## 健康のためというより、「命」をつなぐ活動再開

震災後、クラブ関係者は、避難所にいる高齢者や子ども達が元気を失っていく姿、健康を損なう生活を強いられている現状を目の当たりにし、普段の健康づくりというよりは、命を守るために何か活動を始めなければならないという状況を肌で感じていました。

そして、用具などが何も無い中、タオル1本でのストレッチ運動を実践し、避難生活で疲弊した住民に寄り添い、親身になって話を聞く等を行いました。

自身の生活も安定しない中、地元住民のために行動を起こすことができたのは、震災前から人々の元気のよりどころとなっていたクラブに対して活動再開を期待する声、さらに、地元へ貢献したいという熱い思いがあったからこそと感じました。

震災後心臓を患い入院したにもかかわらず、「いただいた命は地元のみみんなのために役立つ」と言って、仮設住宅の町民に声をかけてウォーキングに連れ出していた、あるクラブ関係者の姿は力強さに溢れ、活力と感動を周囲に与えていました。



【広野みかんクラブ】

いわき市にある仮設住宅集会所内（広野町からいわき市へ移動）での一場面。放射線の影響で、屋外で思う存分遊べない兄弟が室内でボール遊びをしていた所へ年配の方が訪れ、手まり歌を教えながら一緒に遊んでいる様子。

## いざという時の総合型クラブ

総合型クラブ設立の理由は様々であっても、地元のニーズに応えるために活動を始めたということは共通していると思います。

何かあった時のためだけではなく、何かあっても地元にはクラブがあるから大丈夫と言われる存在に、いかにしているかが大切であるように思いました。

いざという時に助け合える関係のある地域づくりに、総合型クラブが果たす役割の大きさを実感する毎日でした。

浜通り地区のクラブは、1つのクラブも解散することなく、今までどおり活動できなくても、できることをできるメンバーでつなぎ、小さな事でもできることから始め、地元の力になろうと、今なお続く厳しい状況下で精力的に活動しています。



【ならはスポーツクラブ】  
榎葉町はいわき市に拠点を移動し、市内にある災害対策本部にてクラブ活動再開を役員で話し合い決定している場面。



浜通り広域スポーツセンターも、事務所が警戒区域のため、福島市へと避難した後、約1年後にいわき市で仮事務所を開設することができました。

その際、県ユニオン（※）会長である中島会長（かつらおSC）が、避難先で製作した看板を寄贈してくださいました。

浜通り地区のクラブ関係者が集える場所として、そして元気を発信する拠点として、思いのこもった手作りの看板を掲げて再出発できたことは、二重の喜びとなりました。

※福島県版の総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の名称「うつくしま総合型スポーツクラブユニオン」の略称

【かつらおスポーツクラブ】  
三春町の仮設住宅（葛尾村から三春町へ移動）にて、県ユニオン会長の中島会長が「浜通り広域スポーツセンター」の看板を製作。

（次号のメルマガ10月号では後編をお届けします）

関連リンク：うつくしま広域スポーツセンターHP

<http://www.u-kouiki.jp/>